

西南学院大学大学院
「国際文化研究論集」第6号抜刷
平成24年1月発行

中国少数民族文化の維持と継承に関する一考察
— 「ウイグル族の教育状況を手掛かりとして」 —

アイネル バラティ

中国少数民族文化の維持と継承に関する一考察

—「ウイグル族の教育状況を手掛かりとして」—

アイネル バラティ

1. はじめに
 - 1.1 問題の所在
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 調査方法
2. ウイグル族とウイグル文化
 - 2.1 ウイグル族について
 - 2.2 伝統ウイグル文化の形成
 - 2.2.1 現代ウイグル語について
 - 2.2.2 イスラーム教の受容
 - 2.2.3 ウイグル族におけるイスラーム要素
3. ウイグル族における教育の沿革
 - 3.1 ウイグル族における伝統教育
 - 3.2 ウイグル族における現代教育
 - 3.2.1 民族教育
 - 3.2.2 国民教育
4. ウイグル族に族おける伝統文化の変遷
 - 4.1 研究の調査地域コルラ市について
 - 4.2 実例研究—コルラ市の場合
 - 4.2.1 言語使用状況
 - 4.2.2 生活様式の多様化
5. 終わりに

1. はじめに

1.1 問題の所在

中国の新疆ウイグル自治区は、ウイグル族、漢族、カザフ族、回族、モンゴ

ル族、キルギス族などの13民族が生活している多民族地域である。総人口は1963.11万人であり、その内訳が、ウイグル族は897.67万人で総人口の45.73%を、漢族が780.25万人で総人口の39.75%を、その他の少数民族14.52%を占めている(2004年¹)。この地域で生活しているウイグル族は母語であるウイグル語²を主な言語として使用し、イスラーム教を信仰し、イスラーム文化を有するトルコ系民族である。近年中国の経済成長に伴い、特に1980年代からの少数民族地域における漢民族の人口の増加により、漢語の必要性が高まってきた。中国全土において、中国政府は、一方では、民族伝統文化の持続と民族アイデンティティーの保持に役立つ民族教育政策と、他方では、国民国家へ統合を目的とした国民教育政策を並行して実施している。したがって、新疆ウイグル自治区では、民族伝統文化を継承させるために少数民族に対して民族教育を行うと同時に、中華民族の枠組みで国民教育も行っている。教育言語についていえば、具体的には、漢民族に対する「共通語³」普及政策と少数民族に対する「双語教育⁴政策」を例としてあげることができるだろう。それらの政策の実施によって、少数民族の間で積極的に漢語を学ぶ状況が出現した。新疆ウイグル自治区におけるウイグル族も例外でなかった。漢語を学ぶことによって漢文化との接触や漢民族とウイグル族間の文化交流が深まりつつあり、13億の人口を有する中国総人口の9.44%(中国統計2006年⁵)を占める55の少数民族の一つであるウイグル族は、漢文化への同化に迫られているといえるだろう。もちろんウイグル族が集中して生活している地域でありながらも、物質的生活の豊かさを追求する姿勢へ変化に伴い、漢語を習得し、漢民族と接する機会も多くなることは避けられないだろう。このような状況において、民族文化をどのようにして維持し、どのように継承していくかは現代ウイグル族において重要な課題

¹ 『新疆維吾爾自治区概況』編写組著 『新疆維吾爾自治区概況』民族出版社 2009年5月 18ページ

² ウイグル語はアルタイ語族のトルコ語派に属する。

³ 「普通話」と定められた北京語を指す。

⁴ 少数民族が自らの言語を学習する同時に漢語を学習すると言った二言語教育である。

⁵ http://www.stats.gov.cn/tjgb/rkpcgb/qqrkpcgb/t20060316_402310923.htm

となるだろう。ゆえに、民族教育と民族文化の関連性は多くのウイグル族の人々が注目すべき課題であると思われる。そこで、ウイグル族の例を通して、現代中国における少数民族の教育状況を考察し、少数民族文化の維持・継承と教育の関連性を考えることが今回の目的である。

1.2 先行研究

まず、日本における少数エスニックグループの文化伝達と継承について行われた研究に佐藤泉氏の「滞日ユダヤ人家族における民族文化の伝達・継承に関する一考察⁶」がある。佐藤氏はこの論文において、海外駐在員家族という短期滞在形滞日ユダヤ人家族が出身国のユダヤ人コミュニティを離れ、日本という異質な文化の中で、どのように民族文化の伝達・継承を行っているのかを検討している。具体的には、伝達者自身の意識・態度形成、伝達者から継承者への意図的伝達、継承者の意識・態度取得過程、また、継承者側からの伝達者への働きかけと言った伝達者と継承者の相互作用と民族アイデンティティーの形成などを分析項目として取り上げ、国に依存しない民族独自の少数派の教育方法の一例として、滞日ユダヤ人にとって民族アイデンティティーの習得にかかわる重要な3つの場面、すなわち1. 家庭、2. 日曜学校、3. 国際学校におけるインタビューおよび日曜学校における子供の発言を基に文化の維持と継承について考察を行い、以下のような結論に至っている。

佐藤氏は短期滞在という特徴を持った滞日ユダヤ人は、出身国のユダヤ人コミュニティから離れた日常生活の中で、家庭内儀礼などを保持する傾向があり、両親が子供の前で行って見せて習慣づけることが、文化の伝達・継承の上で重要である。したがって、家庭内で両親による伝達が行われる限り、子供は民族文化に対する肯定的な態度を獲得していくだろう。そして、子供が日曜学校に通うことで、学んだことを話したり、成長を示す発言をしたりすることは、親としての自覚を促し、両親の民族的アイデンティティーの強化につながると言

⁶ 『民族研究』53/2 1988. 9 178～205 ページ

う。そこで筆者は本論において、少数民族が自らのコミュニティから離れることではなく、少数民族地域にマジョリティのエスニックグループが入ることによっておこる文化接触の中で、少数民族文化の伝達と維持について考えることにする。

次に、中国少数民族文化の維持と変容について、丸山孝一氏が『周縁文化の視座⁷』において中国民族文化の持続と変容を明らかにするために、中国の民族政策と中華民族の概念、中国少数民族文化と教育の諸問題と文化境界領域に立つシボ族の文化過程について考察していることに注目したい。丸山は、こう考察する。中国少数民族文化と教育の諸問題を考えた時に、民族教育と国民教育について、国民教育を受けることは国民の義務であり、その条件を整備するのは政府の責任である。したがって国民教育は保障され、民族教育は当事者が主張し継続的に実施することが大事であり、もし民族教育の当事者が手をゆるめたり、外部の干渉に屈したりすると民族教育は消滅の危機にさらされることになる、だから、それを享受する側が積極的に取り込んで実現させることが大事だと指摘する。丸山は、民族教育は日常生活の中で、例えば、食事の際、宗教儀礼の過程として、あるいは民間の年中行事のかたちで、民族文化が若い世代に具体的個別的に内在化され、民族アイデンティティーが形成されることが自然であると考えている。シボ族の事例によれば、文化の変化を引き起こす大きな原因は通婚であるばかりではなく、経済的・下部構造の変化、教育制度の改革、マスメディアの影響による意識の変化などの大きな原因が作用している。特に近年、中国全土を一つにするナショナリズムが中華民族としての統一を促進し、内包するという方針に基づいて諸民族の調和を図る政策が積極的に進められるなかで、民族間の文化的相違は、例えば、料理、衣服、音楽、舞踊などの諸側面において調和され、異文化の多様性を内包する中華民族の複合性が肯定されるようになった。しかし民族文化の特徴を規定すると考えられる言語と

⁷ 丸山孝一著 『周縁文化視座—民族関係のダイナミックス—』 九州大学出版会出版
2010年3月

宗教については微妙であるが、宗教が特別指導の対象となり、少数民族言語教育の相対的意義が認められながら、漢語教育が強調されている中で、少数民族文化は異文化の境界領域に置かれていると指摘している。そこで筆者は、また少数民族の中でも独自の言語を持つ、イスラーム教徒であるウイグル族を例として、現代教育を受けることで生じた、言語使用状況と宗教活動の実態と日常生活における儀礼などについて考察し、国民化の過程と呼ぶことができる学校教育と民族文化の関係性を分析し、ウイグル文化の維持と継承のあり方を探ることにする。

1.3 調査方法

本論では、現代中国の国家という大きな体制の下で古くから先住民として生活してきている民族地域において、漢民族人口が地域の多数派になるほどに増えつつあり、ウイグル族の積極的な漢語学習によって異文化（漢文化）との接触も深まることになった状況下のウイグル族の民族アイデンティティーの維持と保護の現状のあり方を探ることにする。まずウイグル族の起源（2.1）ウイグル伝統文化（言語・宗教・儀式・習慣など）の形成（2.2）について考えると同時にウイグル族の民族教育の過去（3.1）と現在（3.2）について考えていく。新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の教育状況を述べ、新疆ウイグル自治区のコルラ市において実際の言語使用状況についてアンケート調査を行い、ウイグル語の使用状況を明らかにし、（4.2.1）教育がウイグル語の使用にどのような影響を与えたかについて考察していく。さらに民族教育と文化の関連性、および国民教育と現代ウイグル文化の関連性を考える。具体的には、ウイグル族の生活様式の多様化による、宗教活動、伝統的儀式、漢民族との交流範囲などについてのアンケート調査を行った結果（4.2.2）に基づき、現代ウイグル文化の諸相といった言語と宗教を核とした、ウイグル語の使用と生活様式に関する年配世代と若い世代の間の世代間格差を明らかにしていく。

2. ウイグル族とウイグル文化

2.1 ウイグル族について

ウイグル族は、起源的にトルコ系民族であり、中国の新疆ウイグル自治区内のタリム盆地周囲や天山北方の地域で生活している。2000年現在ウイグル族の総人口は897.67万人であり新疆ウイグル自治区総人口の45.73%を占める。4～6世紀に出現した「袁紇・韋紇」というのは、Uighurの初めての漢文音訳であり、9世紀の40年代にモンゴル草原での天災、内乱とキルギス族の襲撃が原因で、北方草原における回鶻（ウイグル）帝国が滅亡し、西域⁸に移動した。一部の回鶻人は今のトルファン一帯で高昌回鶻王国を興し、その一部はカシュガル一帯でカラハン王国を打ち立てた。移動してきたウイグル族の祖先はここで生活していた他の古代民族と融合して最終的に現代ウイグル族が形成されたとされる。元、明時代にはウイグル族を「畏兀兒」と呼ぶようになるが、清王朝が新疆を統治してからは、ウイグル族が信仰していたイスラーム教が「回教」と称されたため、ウイグル族を「回回」と呼ぶようになった。そして、回族と区別するために、ウイグル族の宗教界上層の人々及び年上の人たちが頭に幅が広いガーゼ「サッラ」を巻きつけたので「纏回」と呼んだ。中華人民共和国が建国されて以降、ウイグルの人たちの中から「纏回」という名前はけなす意味を含んでいるという意見が出たために廃止された。1935年に新疆地方政府が各民族代表大会を召集し、「維吾爾」という漢字音訳の名前を使用することが定められた⁹。

⁸ 西域は中国の西方の諸国を中国人が読んだ汎称、広義にはペルシア・小アジア・シリア・エジプト方面まで含む。狭義にはタリム盆地（現在の新疆ウイグル自治区）を西域と言う。

⁹ 張碧波、董国『中国古代民族文化史』黑龙江人民出版社 1993年 1145、1146ページ

2.2 伝統ウイグル文化の形成

2.2.1 現代ウイグル語について

ウイグル語はアルタイ語族の東トルコ語系に属する。ウイグル語はウイグル文字の発展段階によって、古代ウイグル語時代（オルホン時代ウイグル語）、中世期ウイグル語時代、近代ウイグル語時代（チャハタイ語時代）現代ウイグル語時代に分けられる¹⁰。

古代ウイグル語は4世紀から7世紀までオルホン川¹¹やエニセイ川¹²領域で発見された突厥碑文に書かれたオルホン文字¹³文献であり、オルホン時代ウイグル語とも呼ばれる。

中世期ウイグル語は、8世紀から10世紀まで用いられたウイグル語を指す。この時期にトルファン周辺で仏教を信仰する高昌回鶻王国とカシュガル周辺でイスラーム教を信仰するカラハン王国が成立した。高昌王国時代には仏教の影響で、漢語で書かれた多くの文献がウイグル語に訳された。カラハン王国時代にはイスラーム教の影響でアラビア語やペルシア語からウイグル語に大量の語彙が流入し、古代ウイグル文字である回鶻文字が放棄されてアラビア文字を使うことになった。

近代ウイグル語（チャハタイ語）は、13世紀半ばから15世紀末までに用いられたウイグル語を指す。13世紀半ばから15世紀半ばまではチャハタイ語の形成段階であった。このとき高昌文語とカラハン文語が混用され、更にそれらにアラビア語やペルシア語から多くの語彙が入ってきた。15世紀半ばから17世紀初期までが、チャハタイ語が安定して使われ、最高に発展した時期となっ

¹⁰ 庫熱西・買合木提江・熱義思 主編 『現代維吾爾語』 新疆人民出版社 2003年4月1ページ

¹¹ オルホン川はモンゴルの川であり、ハンガイ山脈に源を發し、セレンガ川に注ぐ、領域には古くから遊牧民が發展し、突厥碑文が発見されている。

¹² ロシア、ペルシア中部の大河。モンゴル北端サヤン山脈に源を發し、北流してアンガラ川を合わせ、北極海エニセイ湾に注ぐ。

¹³ 突厥文字とも言う。

た。この時期に哲学、文学、歴史、医学に関する多数の文献が書かれ、アラビア語やペルシア語の優れた作品がチャハタイ語に翻訳された。17世紀の初めから19世紀の終わりまでの間に、チャハタイ語は次第に現代ウイグル語へと変化し始めた。

現代ウイグル語は、オルホン時代のウイグル語、中世期時代のウイグル語、チャハタイ語の優れた伝統を維持し、音声、語彙や文法構成が再構築されたウイグル語である。現代使われているウイグル族の共通語の形になったのは19世紀の30年代以降である。1935年新疆ウイグル自治区で出版事業が始まってから現代ウイグル語は急速に発展し、短大生、大学生に教えるために、ウイグル語の特徴に基づき、32の音声、またその音声を記録するための32個の文字や文字の書き方や発音の仕方を定めた『現代ウイグル語』という教科書が出版されて以来、現代ウイグル語を系統的に学ぶことができるようになった。

アラビア文字を基礎として形成されたウイグル文字に対して1930年と1951年の二度に亘って文字改革が行われ、現用のウイグル文字となった。1956年に漢字をピンイン化する動きにつれ、新疆ウイグル自治区でもラテン文字を基礎とする新しいウイグル文字「新文字」が作られ、さらに1965年に「新文字」とアラビア文字を基礎したウイグル文字「老文字」を同時に使い始めるようになった。新文字は26個のラテン文字に6個の非ラテン文字を加えた全部で32の文字がある新ウイグル文字である。1976年新疆ウイグル自治区政府が「ウイグル老文字の使用を停止する」という決定を出したが、「新文字」を読めない人が多く、教育分野、印刷設備、管理部門でも全面的に実施することができずに、反対声が起こり、1979年11月に「新、老ウイグル文字を同時に使用する」と言う声明を採択したが、今度は、二種の文字を使うことにより矛盾が発生した。そこで1982年に「新文字」の使用が停止され、「老文字」を復活させ、全面的に使用することになった。

2.2.2 イスラーム教の受容

ウイグル族は10世紀まで仏教、マニ教、ゾロアスター教、景教（ネストリウ

ス派のキリスト教)とシャーマニズムなどを信仰していた。7世紀にアラビア半島で誕生したイスラーム教は10世紀から新疆地域に伝わり、15世に全域がイスラーム化したのである。以下では10世紀から15世紀までウイグル族がイスラーム教を受容した経緯を二つに分けて考えて行く、一つ目はカラハン王国時代、二つ目はチャガタイ王朝時代のイスラーム教の受容である。

840年にモンゴル草原ではウイグル帝国が崩壊し、ウイグル人は3つのルートで西へ移動した。一部のウイグル人はベシユバリクに移動し、866年高昌回鶻王国を建てた。他の一部は、チュー河畔のバラサグンを中心としたカラハン王朝を建てた。後に宗教信仰の違いによって、クチャが高昌回鶻王国とカラハン王朝の国境になったとされる¹⁴。

まず最初のカラハン王国時代、サトユク・ブグラ・ハン(カラハン王国二代目の王)はサーマーン朝(875～999)の影響でイスラームに改宗し、カラハン王国で初めてイスラーム教を信仰した人となった¹⁵。サトユク・ブグラ・ハン は仏教を信仰する叔父から政権を奪い、カシュガルの支配権を握ると、イスラーム教を合法宗教と宣言し、人々にイスラーム教に改宗するよう呼び掛けた。当時、カラハン国で主流だった宗教は仏教で、またマニ教、景教、シャーマニズムを信仰する者も多かった。そこでサトユク・ブグラ・ハン は旧来の宗教信仰を捨ててイスラーム教に改宗させるために強制的な措置をとり、アラビア国家をモデルにしたイスラーム法統治体制の宗教法廷(Qazihana¹⁶)を設置した。こうしてカシュガルの支配者となったサトユク・ブグラ・ハン は、カラハン王国の人々の半分をイスラーム教へ改宗させたので、カラハン王国は新疆のイスラーム化の先駆けとなった。

ムサ・アルスラン・ハン はサトユク・ブグラ・ハンの息子である。彼はハン(君主)の位を継承してから960年にイスラーム教を国教と定め、20万帳¹⁷の

¹⁴ 維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 130ページ

¹⁵ 維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 132ページ

¹⁶ イスラーム教宗教裁判所

¹⁷ (遊牧民族の)フェルトで作った天井の丸いテント

規模のトルコ人がイスラーム教を信仰した¹⁸とされる。つまりカラハン王国時代のイスラーム教の流入に際し、サトゥク・ブグラ・ハンやムサ・アルスラン・ハンがイスラーム教を受け入れ、保護したりしたのは、政治的な必要性があったためではないかと考えられている。すなわち、サトゥク・ブグラ・ハンがイスラーム教を受け入れたことは、カラハン王国はサーマーン朝からの「聖戦」の攻撃を防ぐためだと考えられている。カラハン王国で信仰された仏教・マニ教・シャーマニズム等をイスラーム教と比較すると、イスラーム教の信者に対する結集力が強く、特にジハード精神は権力者にとって自身の支配を維持し、勢力を拡大するために有利であったと思われる。

次に東チャガタイ・ハン国時代においてイスラーム教が大量に流入して定着したとされる。モンゴル人は1225年に、イランとイラクにイル・ハン国、中央アジアにチャガタイ・ハン王国、黒海、カスピ海、アラル海北方の大草原とロシアにキプチャク・ハン国を建てた。この中のチャガタイ・ハン国は、13世紀にチンギス・ハンの次男チャガタイが、4000人のモンゴル人とともに中央アジアに移住して成立した国家である¹⁹。1318年頃チャガタイ・ハン国は内部争いにより、サマルカンドを中心とした西部ハン国と東部チャガタイ・ハン国に分かれた。1346年、トゥグルク・ティムルが東チャガタイ王国の王になると、彼はイスラーム教へ改宗し、東チャガタイ・ハン国の王族の中で初めてイスラーム教に信仰した人になった。彼は天山北部でイスラーム教への信仰を強制し、その結果16万人のモンゴル人がイスラーム教に改宗することになった。ゆえに天山南北に生活をしているモンゴル人は、定住化、またイスラーム化し、ウイグル族に融合したという²⁰。

トゥグルク・ティムルは、モンゴル人に対して強制的な方法を用いてイスラーム教への改宗を実行し、ムハマット・ヘイデル・コラガニの『タリヒーレシディア』(漢語訳 第一部 233 ページ)によれば、サッラをしていないモンゴル人の

¹⁸ 維吾爾族 簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 133 ページ

¹⁹ 余部福三 『イスラーム全史』 勁草書房 1991年 237 ページ

²⁰ 維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 233 ページ

頭部に釘を刺したと書かれている²¹。チャハタイ・ハン国時代では、チンギス・ハンの子孫たちがカラハン王国のブグラ・ハン王族が達成できなかったことを達成したのであり、イスラーム教が布教された新疆の南方に次いで、仏教が盛んであった東部と北部のイスラーム化も完成し、新疆全地域で2回目のイスラーム教の定着が達成されたのである。

2.2.3 ウイグル族におけるイスラームの要素

イスラーム教は10世紀にウイグル族が信仰するようになった後、ウイグル族居住地区で支配的な地位を占め、他の宗教を排除してウイグル族の中心的な宗教になった。これ以降、イスラーム教はウイグル族の経済、政治、文化、生活習俗などのすべての領域にわたって影響を深め、ウイグル族の伝統文化の中にイスラーム教の要素が頻繁に現れるようになり、現在に至っている。

2.2.3.1 言語文字と日常生活用語

カラハン王朝時代では、公用語としてウイグル語と古代ウイグル文字（回鶻文字）が使われていたが、イスラーム教を信仰するようになってから、古代ウイグル文字はアラビア文字に取って代わっていった。『文学と歴史問題』という雑誌で発表されたA.ブヨプロウの「中央アジアの人々の文化史においてウイグル人が果たした役割」という論文には、カシュガル地域でのウイグル族が9世紀からアラビア文字を使っていたと記載されている²²。

この時代に首都カシュガルで宮廷人として過ごしたバラサグン生まれのユースフ・ハーッス・ハージブ（Yusup Khas Hajip）が1年半の歳月をかけて君主のあるべき姿、主君の守るべき道徳的心得を説いた『クタドゥグ・ビリグ（幸福になるために必要な知識）』を書いて、スレイマン君主に献上した。この書物は一種の教訓・道徳書であるが、アラビア文字を用いたカラハン朝トルコ語の

²¹ 維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 236ページ

²² 維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年 165ページ

韻文で書かれ、現存するトルコ・イスラム文学最古の作品であるとされている。そして、1074年に完成した『ディワン・ルガート・テュルク Divan Lughat Turk (トルコ語辞典)』の著者マフムード・カシュガーリー (Mahmud Kashgari) も、カシュガル生まれのトルコ人貴族であった。カシュガーリーはバクダッドで教育を受け、アラビア語がよくできた人で、この辞書もバクダッドで書かれたと思われるが、史上初のトルコ語・アラビア語辞典であるとされる。このことから考えると、イスラーム教が入ってきたことに加え、ウイグル族の文学作品が回鶻文字 (古代ウイグル文字) とアラビア文字で書かれたことや、作品の内容としてイスラーム思想が強調されたこと、そして、世界初のトルコ語アラビア語辞典が発明されたことなどから、当時のウイグル族の考え方や、価値観に多大な影響を与えた言語や文字に対して、イスラーム教の信仰を通じてアラビア語が大きな影響を与えていたことがわかる。

チャガタイ・ハン国時代に、現代ウイグル語の基礎となったチャガタイ語が形成され、ウイグル文字はアラビア文字を基礎としたチャガタイ文字を使うようになった。現在でもこのチャガタイ文字を基礎とした現代ウイグル文字が使用されている。ウイグル族がイスラームへ改宗してから、日常生活の中で使う言葉としてアラビア語、ペルシア語から入ってきた言葉が現在でも多く存在している。例えば、dushman (敵)、dunya (世界)、din (宗教)、dost (友達) などが挙げられる。

2.2.3.2 祭りや各種の儀式

ウイグル族の祭りの時間はイスラーム暦で定められている。イスラーム暦で毎年9月1日は断食の始まりと決められ、それから1ヶ月経った後 (イスラーム暦10月1日) にロザ祭り (開齋節) が行われる。開齋節から70日経つと (イスラーム暦12月10日) クルバン祭 (宰牲節) になる。この二つの祭は宗教的祭日であると言われるが、この時にウイグル族は他のイスラーム教徒と同じように朝モスクでお祈りし、墓参りする。今日では、祭りが行われる3日の間、家族や、親戚、友人たち、同じ職場の人たちがお互いに訪問し、客を招いて娯

樂活動を行うなど、自分なりの形式でこの祭りを過ごしている²³という。この祭りはイスラーム教の伝来とともに、ウイグル族の間に入ってきたが、1000年以上の歴史の中でウイグル族の生活習慣と完全に融合し、現在ではウイグル族の伝統文化として定着している。

ウイグル族が行う通過儀礼で重視されているものは、割礼式、結婚式、葬式、などであり、これらの儀礼はイスラーム教の形式で行われる。割礼はウイグル族の男の子が7歳になる前に行う儀式である。割礼儀式はウイグル語で「スナット・トイ」と称され、めでたいことであると言われる。当日割礼を行う家に客を呼び親戚や友人たちが集まってから宴会が始まる。家に招待した人々も、土産を持ち、割礼する男の子に祝いの言葉を述べる。宴会が終わってから、割礼を専門に取り仕切る長老が、手術するナイフ（メス）を子供に見せず、素知らぬ顔をして、物語りをしながら子供に気晴らしをさせ、子供の性器の薄い包皮の分をマッサージしながら、子供が気付かなかいうちに、素早く竹で作ったハサミで挟んで切ってしまう。子供が痛みを感じて泣きだそうとした時、ゆで卵もしくはナツメを子供の口に入れる。これを食べているうちに痛みがなくなり、割礼も終わる。現在では多くのウイグル族の子供たちの割礼は病院で行うことになっている。割礼もイスラーム教の受容と同時にウイグル族の中に入っており、現在では民族習俗になったとされる。

現代ウイグル族の結婚式では、「ニカフ」をとり行うことが結婚式の始まりだと言われる。「ニカフ」はイスラーム教の聖職者であるアホンが担当する儀式であり、具体的には次のような形で行われる。結婚式当日の早朝、男性側が新郎を連れて女性側の家に来る。女性側の人たちは、色々な食べ物を用意して新郎たちを迎える。食事が終わってからイスラーム教のアホン²⁴が「ニカフ」を担当し読経する。読経前にアホンが新婦の扶養費を決める。この扶養費は女性側に渡さない。もし結婚生活がうまくいかなくなって離婚する場合に女性の生活費

²³ 阿不都熱依木・阿西木『維吾爾族風俗誌』新疆人民出版社 1993年、(2000年)

²⁴ ウイグル族はイスラーム教指導者をアホンと呼ぶ。

として渡される。そして、結婚する2人の両親の許可を得て、お椀の中に塩漬けのナンを入れ、コーランの経を読み、アホンが新郎に「あなたはXXを妻として認めますか」と聞く、新郎は「認めます」と答える。次に、アホンが新婦に「あなたはXXを夫として認めますか」と質問をし、新婦が低い声で「認めます」と答えたら、アホンは続けて読経し、2人が夫婦になったことを宣言する。新郎新婦が塩漬けのナンを食べた後「ニカフ」の儀式が終り、結婚式の宴会に入る。ウイグル族は、ナンと塩を非常に貴重なものと思ひ、塩漬けのナンを食べることは、「私たち二人は、今日から一緒になり、苦楽を共にし、互いへの忠誠心が揺るぎないものです」という意味を持つと考えている。アラブ人の結婚儀式である「ニカフ」はイスラーム教の受容と同時にウイグル族の間に入ってきた儀式であるとされる。

現代ウイグル族の葬式は非常に厳粛な儀式であり、イスラーム式で実施されている。ウイグル族の人々が死亡した時は、まず死亡者の顔を西南方向に向かわせ、きれいな白い布で顔を覆い、あごを白い布で縛って口を閉じ、死者の安らかな眠りを祈る。それから、友人や親戚に死亡を通知するが、真夜中に死亡した場合にでも真夜中に死亡を通知する。親戚や友人たちとの別れをするために、遺体は一日家に置かれる。葬儀前に死者の兄弟や専門の人が死体をきれいに洗い、白い布で遺体（男性は3層、女性は5層）を巻く。遺体を洗う時に他の人は中に入れず、アホンが扉の前で死者のために祈祷する。その後遺体をモスク内にある共同で使う死体寝台“タウット”におき、親戚や友人たちがモスクに運びアホンの司会でイスラーム経を読んで葬儀を行う。それからマザル（墓）に行って埋葬する。埋蔵する墓は、長さ2m幅1m深さ3mの四角い形であり、またその側面から穴を掘り、遺体の頭を西に足を東に向かわせてその穴の中におき、土の固まりで穴をブロックしてから土で埋める。埋葬が終わるとまたイスラーム経を読み葬式が終わる。この儀式は死者の「アッラー」の忠実な使用人であり、ムハマドの信徒任務を完成したムスリムであることを表すと言われる。

2.2.3.3 住宅、生活習慣とタブ

住宅の形式はペルシア、アラビアの影響を受けており、大部分の住宅が四角形で、天窓がある。果物を干すために屋根を平坦にする。家の前には庭があり、花や、果樹を植える。また葡萄棚を作るのもウイグル族の住宅の特徴である。特にモスク建築の影響が自宅建築などに見られる

日常生活における毎日の挨拶の時『コーラン』の第10章10節、または51章25節に決められたようにアラビア語の「アッサラーム・アライクム（あなたに平安を）」という挨拶と、その答えの挨拶としての「ワ・アライクム・アッサラーム（あなたにこそ平安を）」という表現を使うのは一般的である。毎回の食事の前の祈り「ビスマラ・ラヒマヌラヒム（アッラーの神のご加護のもとで）」、食事が終わってからの祈り「アーミン・アッラフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」は、ウイグル族にとって一般的常識であると言われている。長老たちを尊敬することが非常に重視されており、長老たちの前でタバコを吸ったり、酒を飲んだりすることが禁止され、長老たちと会ったら、立ち上がって自ら挨拶をし、席を譲ることが決められている。食文化の中でも、イスラーム教のコーランに書かれたように、豚を育てたり、豚肉を食べたりすること、死んだ家禽や家畜を食べること、猫、犬、驢馬などの動物を食べることが禁止されている。

モスクや墓の周り、水源地や食べ物と関係がある場所をきれいに保つことが決められ、汚れものを持ち込んだりすることが禁止されている。モスクはウイグル族の文化の中で非常に重要な機能を果たしていると言われている²⁵。モスクはウイグル族から神聖な宗教の場と見なされている。一日5回の礼拝と週一回の大礼拝²⁶以外は、住民が会合を開いたり、宗教学校の講義の場としても用いられている。ウイグル族のモスクは、同じくイスラームを信仰する他の民族より、その数をはるかに多い。特に南疆では、都市、村落を問わずいたるとこ

²⁵ 曹 紅著 『維吾爾族生活方式』 中央民族大学出版社 1999年 286ページ

²⁶ イスラーム教では毎週金曜日に一回の大礼拝がありジュマと称される

ろに大小様々なモスクが分布している。モスクはウイグル族の日常生活において重要な部分であり、一つの宗教文化としてウイグル族の思想や考え方に影響を及ぼしており、また独特の民族文化として、ウイグル族の生活の中に浸透している。各モスクは人々を自然に集約する力をもっており、人々の生活に強い影響を与えている。

以上のことから、ウイグル族が10世紀にイスラーム教を信仰してから、生活のあらゆる面においてイスラーム教の強い影響が見られるようになっており、ウイグル族の伝統文化の形成の中で大きな役割を果たしてきた。そして、一部のイスラームの教義がウイグル族の伝統的な日常生活習慣に取って代わっていたと考えられる。ウイグルの人々にとって、イスラーム教の教えは信仰と礼儀活動を支える宗教的原理の体系であると同時に、民族の伝統と集団的アイデンティティーを構築する文化体系であり、また民族の叡智の総体を伝達する教育体系でもあったと考えられる。

3. ウイグル族における教育の沿革（学校教育を中心に）

3.1 ウイグル族における伝統教育

まず、新疆ウイグル自治区の民族学校教育の始まりから、述べることにする。19世紀末までウイグル地域の学校教育は旧式学校—「コーラン「マクタブ（Maktap²⁷）」学校」であった。都市や村落に開設された旧式小学校は「アホン（Ahun²⁸）」や「ハリパト（halpat²⁹）」と称するその地域のモスクのイマーム或いは同レベルの宗教知識人が教師となり、学校の設置場所はモスクの空部屋や、「アホン」の自宅であった。生徒たちは年齢に関係なくコーランの暗唱やアラビア語の授業を受け、コーランの内容の理解ではなく、コーランを読める程度のレベルを目標に学習が行われた。旧式の中学校は「マドレス（Madris³⁰）」

²⁷ 現代ウイグル語では、「学校」という意味をもつ。

²⁸ 「宗教知識人」という意味をもつ。

²⁹ 「宗教学校の先生」という意味をもつ。

³⁰ 現代ウイグル語では、「宗教学校」という意味をもつ。

と呼ばれ、アラビア語の文法、算数、哲学、コーランの解釈などが教えられた。19世紀末から、20世紀初頭までウイグル族の中の一部の人々は、当時タタル族が集中して暮らしているカザン市で貿易をする中で、タタル族と交流しながら、彼らの工業、教育事業がトルコ系民族の中で一歩進んでいた事実を知っていた。中でも当時のウイグル人商人ウセイン・ムサバイフとパウドン・ムサバイフ兄弟は、近代学校³¹教育をウイグル族の間に持ち込んだ人々であった。彼らは1870年アトシュのイケサク村に、ウイグル族の初の近代学校を創り、カザン市に人を派遣してタタル族の学校経営の方法を学び、タタル人の教師を招いて学校を運営させた。これがウイグル族の近代民族教育の始まりである³²。それからしばらくは旧式コーラン学校と新式学校が併存することが続き、新式学校でもコーランの授業が行われていた。中華人民共和国の建国から現在に至るまで宗教と教育の分離が図られた中、コーラン学校の取り締まりが行われる一方で、新式学校が増えるにつれ、旧式学校が無くなるに至ったのである。

3.2 ウイグル族における現代教育

山下晋司、船曳建夫が編集した『文化人類学キーワード』において関一敏氏は、以下のように述べる。

「近代国家と学校教育は教わる者にとってはとらえにくい、学校教育の目的や役割は、近代国家形成期の為政者の目からすればはっきりしていた。まず国家の版図覆う共通言語の同一的普及が必要であり、共用語もしくは標準語の確定（これは普通領土内の有力な民族言語や首都圏の方言をもとに創出される）と共に全国の小中学校にそれを一律に広げていく。共用語もしくは標準語は一方で軍隊内部の意思疎通を可能にして、一方では書き文字の基礎となって公文書を可能にして、それによって官僚制の支えになる。こうした制度の役割に加えて、言語の統一が我々という国民意思の醸成に果たす役割は大きかった。国語

³¹ コーランだけではなく、数学や科学などの科目が設けられた学校のことであり、新式学校と称する。

³² 馬力克・恰尼西夫 『中国塔塔爾族教育史』 民族出版社 2005年 62ページ

ばかりでなく歴史や地理までも中央発信の教科書を用いることは、それぞれの郷土色とそこに育まされる史観や小異として国家規模の大同につくことになり、それを国民化の過程と呼ぶことができる³³⁾。そこで、筆者は学校教育を中心とし、一方でウイグル族の民族アイデンティティーの維持や保護を目的とする民族教育と、他方で中華人民共和国の国民として受ける国民教育すなわち、ウイグル族に対する「双語教育」について考えて行く。

3.2.1 民族教育

中国の各少数民族地域においては、民族アイデンティティーの保護と持続を目的とした民族教育が行われている。新疆ウイグル自治区の場合、少数民族が多い地域では民族小学校、民族中学校と民族高等学校を設立し、形式として小学校を6年、中学校を3年、高等学校も3年とし、少数民族生徒に対して民族教育を行っている。ウイグル族においては、ウイグル族学校の生徒も先生もウイグル族であり、生徒たちはすべての授業を民族語で受けており、母語学習の場所、ウイグル族がお互いに交流し、民族アイデンティティーの持続に役立つ場所となり、伝統ウイグル文化の継承を目的とする民族教育であると考えられている。民族学校における教育の内容としては、ウイグル語文（日本の国語に当たる）という科目の他は全国の漢民族学校の教科書のウイグル語翻訳が使用される。

3.2.2 国民教育

中国の少数民族地域では民族教育を行うと同時に、中華人民共和国の国民の義務である国民教育も行っている。ゆえに新疆ウイグル自治区のウイグル族学校において、母語教育を行いながら、小学校三年生から漢民族学校の生徒が英語を学ぶのに対して、ウイグル族の生徒は漢語を学ぶといった「双語教育」行

³³⁾ 山下晋司、船曳建夫編『文化人類学キーワード』株式会社有斐閣 2008年3月 183ページ

われている。

新疆ウイグル自治区の民族学校における漢語教育は1950年代から始まったとされるが、現在では学習レベルへの要求が上がりつつある。少数民族に対する漢語教育は、特に1980年代以降学校教育の主な内容となり、当時小学校三年生から漢語教育が始められたものの、1999年には小学校1年生から始められるようになった。そして小中学校や高校においてウイグル語文といった科目以外の科目を漢語で行う「双語クラス」も設立された。したがって、小学校、中学校や高校などではウイグル語文と思想、道徳の授業だけをウイグル語で受け、数学、理科、化学などの授業は漢語で受けるようになった。

1997年国家教育委員会は、「少数民族学校では、中国漢語水平考試（HSK）を実施する」という通知を公布し、1998年から新疆、内モンゴル、チベット、吉林、青海などの地域でHSK成績を少数民族高校生の大学受験成績にすると定めた。1999年9月には国务院の「少数民族地域の人材育成仕事を加速させる」という通知文書が各教育部門に配布され、教育省は「内地地域では、新疆高校クラス³⁴を設置する」という意見を打ち出した。その結果2000年秋から北京、上海、南京、杭州、広州などの12都市の15カ所で、新疆高校クラスが設置された。内地における新疆高校クラスを4年学制と決め、当年度は40人の25クラスで合計1000名の生徒と募集した。生徒たちは最初の一年間で漢語を勉強し、三年の間に授業のすべてを漢語で受けるよう定められた。2004年、新疆高校クラスの生徒は5600人に達し、2005年には3075名の生徒が新しく増加した。このように漢語教育という名目による国民教育の強化により、名門大学へ進学を目指す、ウイグル族の生徒たちは積極的漢語を学ぶようになり、中国内地の新疆高校クラスへ進学する者が次々と現れるようになった。これらのことから考えると、若い世代の漢語習得力が向上し、漢文化との触れ合いも次第に増加することだろう。そこで、次に新疆ウイグル自治区の南部の都市コルラ

³⁴ 新疆ウイグル自治区における少数民族の生徒は中学校を卒業してから、試験を受け合格できれば、新疆クラスに入学することができるが、一年間漢語を学んだのち、三年間高校の授業を受けるため、4年間で高等学校を卒業するということになる。

市を対象として、母語であるウイグル語の使用状況や生活様式の多様化についての調査を行い、ウイグル文化の変遷について考察していく。

4. ウイグル族に族おける伝統文化の変遷

4.1 研究の調査地域コルラ市について

コルラ市は、新疆ウイグル自治区の中心部に位置しており、バインゴリンモンゴル自治州の首府である。総面積は7116.9平方メートル、総人口は、48万人（移動人口を含めない³⁵）であり、ウイグル族、漢族、モンゴル族、回族などの少数民族が生活している多民族地域における少数民族人口は総人口の29.4%を占める³⁶（2008年）。1979年にコルラ市が成立してから、南疆鉄路の開通とタリム石油開発によって、新疆地域において経済、社会、教育などの各面では確実な発展を遂げ、西部地域では継続的に5年間先駆けとなったとされている。

コルラ市を研究対象とした理由の、1つ目は、比較的漢民族の人口が多い地域であること、2つ目は、モンゴル自治州の首府であったため、総人口の3割を占める少数民族人口の中ではウイグル族のほかにモンゴル族や回族が多く生活している多民族地域である点である。したがって、ウイグル語の保護や言語維持の継続において不利な部分もあり、多民族と文化接触が起こりやすい地域でもあることから、コルラ市を研究対象として、多民族地域における少数派の「文化のモデル」となる³⁷と言われる言語、すなわちウイグル語の使用状況を把握するとともに、イスラーム教を中心とする生活様式の多様化を考えることにした。調査対象者とした世代は60代の（25人）、30代後半から40代前半まで（20人）、10代前後（15人）、合計60人に対してアンケート調査を行った。

³⁵ 2009年にはコルラ市の移動人口は20万人近くあるとされている。

³⁶ 『庫尔勒市人民政府网站』 <http://www.xjkel.gov.cn/structure/zjkel/keljjjj.htm>

³⁷ 山下晋司、船曳建夫編『文化人類学キーワード』株式会社有斐閣 2008年3月91ページ

4.2.1 言語使用状況

コルラ市におけるウイグル族の言語使用状況についての調査

- (1) 家庭の中では主にウイグル語を使用し、時に漢語使用することもある。
- ① 家庭の中で大人同士は、ウイグル語を使用する。
 - ② 子供同士はウイグル語と漢語を混用する。
 - ③ 大人と子供はウイグル語を使用する。

家庭における言語使用状況

(30代後半から40代前半の20人と10前後の15人 供合計35人)

	大人同士(名)	子供同士(名)	大人と子供同士(名)
ウイグル語が中心	18	2	23
漢語が中心	0	8	5
両方の言語混用	2	5	7

調査結果により筆者が作成

- (2) 学校では主に漢語を使用、一部の学校ではウイグルと漢語同時に使用する。
- ① 民族学校ではウイグル語を使用する。
 - ② 漢族学校では漢語を使用する。
 - ③ 民漢合校では、使う言語は主に漢語であり、ウイグル語を使用することもある。

学校における言語使用状況

(10代前後の15名の子供を対象とする、内2名のみ民族学校に、4名は漢族学校に、9名は民漢合校に通っている)

	ウイグル族生徒同士 (名)	ウイグル族生徒と漢 族生徒 (名)	先生と生徒 (名)
民族学校でウイグル語 を使う	2	0	2
民族学校で漢語を使う	0	2	0
漢族学校でウイグル語 を使う	0	0	0
漢族学校で漢語を使う	4	4	4
民漢合校でウイグル語 を使う	9	0	9
民漢合校で漢語を使う	9	9	9

調査結果により筆者が作成

(3) 社会では年配の間ではウイグル語、若い世代ではウイグル語と漢語が混用する。

- ① 年配のウイグル族同士はウイグル語を使用する。
- ② 年配のウイグル族と漢族同士は漢語を使用する。
- ③ ウイグル族の年配と若い世代はウイグル語を使用する。
- ④ ウイグル族の若い世代同士はウイグル語を中心に使用するが、漢語を使うこともある。
- ⑤ 漢族とウイグル族の若い世代同士は漢語を使用する。

社会における言語使用状況 (30代後半～40代前半の20人を対象)

	年配世代同士 (名)	若い世代同士 (名)	年配と若い世代同士 (名)
ウイグル族同士でウイ グル語を使用	20	20	20
ウイグル族同士で漢語 を使う	0	2	0

ウイグル族同士でウイグル語と漢語を混用する	0	5	0
ウイグル族と漢族同士でウイグル語を使う	0	0	0
ウイグル族と漢族同士で漢語を使う	20	20	20

調査結果により筆者が作成

これらのアンケート調査から、家庭における言語使用は主にウイグル語であるのに対して、学校では漢語を使用し、地域社会においては、年配世代がウイグル語を使用するのに対して、若い世代は漢語とウイグル語を混用するといった言語使用の傾向が考えられる。民族教育を受けた親たちはやはり母語を使うことを心掛けている、しかし、現代中国の国民教育を受けている子供たちは、民族文化の維持や保護のための民族教育も同時に受けているにも関わらず、漢語が主となった言語使用状況であると言えるだろう。

4.2.2 生活様式の多様化

生活様式を把握するために、(1) 宗教活動、(2) 伝統的儀礼、(3) 漢民族との交流範囲などについて55人の大人（内60代の35人、30代後半から40代前半までの20人）と10代前後³⁸の子供15人に対してアンケート調査を行った結果を表にすると以下ようになる。

(1)－①宗教活動について 男性対象

回答（名）	60代 11人		30代後半～40代前半 10人		子供9人	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
一日に五回礼拝を礼拝行う	7	4	1	9	0	9
一日に一回礼拝を行う	2	9	3	7	0	9

³⁸ 7歳と8歳の子供を含める。

毎日モスクに礼拝に行く	4	7	0	10	0	9
金曜日だけに行く	9	2	3	7	0	9
祭りといった特別の日にモスクに行く	11	0	7	3	0	9
よく親子でモスクに行く	1	10	1	9	0	9
祭りといった特別の時だけに親子で行く	11	0	8	2	1	8
親から宗教について教えられたことがある	11	0	8	2	3	6
親が宗教について教えて欲しい			10	0	6	3
毎年断食をしている	5	6	7	3	0	9

調査結果により筆者が作成

以上のアンケート調査から見ると、祖父の世代では宗教儀式が活発に行われるのに対して、父世代は少なく、特にモスクで行われる礼拝には、お祭り葬式といった特別の日だけしか参加しないことが解る。子供の世代においては礼拝をほとんどしない状況が明らかになる。祖父の世代が礼拝に参加しなかった、また断食しなかった原因として体調が悪くなかったなどの理由が挙げられており、父世代は、仕事の原因、また職場ではモスクに礼拝に行ってはいけないと決められたなどの理由が挙げられている。子供の世代においては、宗教活動がほとんど行われていないことも明らかになり、親から宗教について教えて欲しいとは思わない子供がいることから推測すると、中国政府が実施している学校教育と宗教教育を分離する政策が理由ではないとも思える。

(1)－②宗教活動について 女性対象

	60代 15人		30代後半～40代前半 10人		子供6人	
回答 (名)	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
一日に一回礼拝を行っている	14	1	5	5	0	6

一日に五回礼拝を行っている	12	3	1	9	0	6
毎年断食をする	10	5	3	7	0	6
祭り、儀式といった特別の日に宗教活動に参加している	12	3	7	3	0	6
祭り、儀式といった特別の日に行うべき宗教活動を子供に教えている	15	0	8	2		
親から宗教について教えられたことがある	15	0	10	0	3	3
親が宗教について教えて欲しい			10	0	4	2

調査結果により筆者が作成

女性を対象とした宗教活動についての調査からは、祖母の世代とその孫世代において宗教活動に関して大きな違いが存在することが解る。何故孫世代は宗教活動を行わなかったのかについての原因は国から義務づけられている国民教育であるのではないかと思われる。

男女を別々にした調査結果から見えてくるのは、宗教活動について女性のほうが男性より活発であり、子供に対して宗教儀式について教える情熱も高いということである。

(2) - ① 伝統的儀礼について 男性対象

	60代 11人		30代後半～40代前半 10人		10代前後9人	
回答 (名)	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
伝統的儀式である祭りの時に親族との交流に参加する	11	0	9	1	7	2
伝統的儀式である祭りの時に親族や知り合いなど交流することは生活習慣の一部である思っている	11	0	10	0	8	2
子供に親族との交流が生活習慣の一部であると教えている	11	0	10	0		

親族や知り合いの結婚式、葬式と割礼式に必ず参加する	11	0	7	3	9	0
親から生活習慣やウイグル族の伝統文化について教えられたことがある	11	0	10	0	7	2
親がウイグル族の伝統的儀式について、もっと教えて欲しい	/	/	10	0	6	3
ウイグル族の伝統的儀式が行われる時に漢族と交流することがある。	2	9	7	3	7	2

調査結果により筆者が作成

以上の調査結果から、男性たちが各世代において伝統的儀式に参加することや、親族や知り合いとの文化交流に心掛けていることがわかる。それと共に伝統的儀式において漢族との交流も父世代や子供の世代で職場関係や、同級生関係であると言えるかもしれないが、ある程度行われていることが考えられる。

(2) - ②伝統的儀礼について 女性対象

回答 (名)	60代 14人		30代後半～40代前半 10人		10代前後 6人	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
伝統的儀式である祭りの時に親族との交流に参加する	14	0	10	0	6	0
伝統的儀式である祭りの時に親族や知り合いなど交流することは生活習慣の一部であると思っている	14	0	10	0	5	1
子供に親族との交流が生活習慣の一部であると教えている	14	0	10	0	/	/
親族や知り合いの結婚式、葬式と割礼式に必ず参加する	14	0	10	0	4	2
親から生活習慣やウイグル族の伝統文化について教えられたことがある	14	0	10	0	4	2

親がウイグル族の伝統的儀式について、もっと教えて欲しい			10	0	6	0
ウイグル族の伝統的儀式が行われる時に漢族と交流することがある。	0	14	4	6	3	3

調査結果により筆者が作成

上の表から見ると伝統的儀式が行われることに対して女性たちは非常に積極的であることが考えられる。もちろん男性もしくは女性の若い世代において、交流は親族やウイグル族の知り合い同士で行われるだけでなく、漢族との交流も存在するようであるが、ウイグル族の民族文化の伝達と継承のために、伝統的儀礼に参加することや、次の世代に伝えていくことは最も有力な方法であると言えるだろう。

(3)－①漢民族との交流範囲について 男性対象

回答 (名)	60代 11人		30代後半～40代前半 10人		子供 9人	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
職場が中心である	3	8	8	2		
日常生活の中でもある	1	10	1	9		
学校が中心である					6	3
漢民族の伝統的儀式の時に漢族と交流することがある	0	11	7	3	8	1
漢民族の伝統的儀式の時にウイグル族同士で交流することがある	11	0	10	0	9	0

調査結果により筆者が作成

以上のことから、漢民族との交流範囲は職場や学校の方が多く、日常生活の中では非常に少ないことがわかる。漢民族の伝統的儀式が行なわれてた時も働いている男性がある程度存在することは職場関係が原因ではないかと思われる。

(3)－②閩見族との交流範囲について 女性対象

回答 (名)	60代 14人		30代後半～40代前半 10人		子供6人	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
職場が中心	0	14	6	4		
日常生活の中でもある	2	12	4	6	2	4
学校が中心					4	2
漢民族の伝統的儀式の時に 漢族と交流することがある	0	14	3	7	5	1
漢民族の伝統的儀式の時に ウイグル族同士で交流する ことがある	14	0	10	0	6	0

調査結果により筆者が作成

上の表から考えられるのは、女性に関しても漢民族との交流範囲は職場が中心となることである。また男女への調査結果から漢民族の伝統的儀式である春節や仲秋節などの時期にはウイグル族同士が交流することがわかる。その原因はもちろん中国政府の祝日として仕事が休みという理由があるからであると考えられるだろう。

生活様式の多様化について宗教活動、伝統的儀礼、漢民族との交流範囲という三項目に関して行った調査結果に基づいて、以下のように3つのことが指摘できるだろう。まず第1に、宗教活動は男性より女性の方が、子供より親の方が活発化していることが考えられ、女性の次の世代に対して、宗教儀式などを教えるべきであるといった考えも男性より積極的であることが考えられる。第2に、ウイグル族の伝統的儀式において、男女とも積極的に参加する様子が見られる、子供たちの間では漢民族と交流することもある程度見られるが、ウイグル族の伝統文化である、各儀礼や祭りなどに参加し、民族文化を吸収して身に着ける熱心さも低いとは言えない。したがって、伝統的儀式はウイグル族の民族文化の伝達と継承に関してもっとも有力な手段であるかもしれない。第3に、現在ウイグル族が積極的に習得している漢語能力は、漢民族との交流にお

いて欠かせないし、もしくは交流を促す方法にもなっているだろう。しかし、あくまでも職場や学校を中心とする場面が多く、両親の世代では少なく、子供世代ではある程度あるように見られる。日常生活においては、ウイグル族同士の交流は盛んになっており、漢民族との宗教の違いという部分が働きかけているかもしれない。

終わりに

新疆ウイグル自治区で生活しているウイグル族は、10世紀からイスラーム教を信仰し始め、15世紀までに2つの段階を経てイスラーム化が進んでいった。かくしてイスラーム教の影響を受けつつ、言語や日常生活などの面でイスラーム要素が浸透するようになった。20世紀半ばに中華人民共和国が成立してからは、中国政府の少数民族文化を尊重する民族政策の実施にともない、民族教育政策が推進されることになった。新疆ウイグル自治区では、民族学校が設立され、少数民族の伝統文化の維持と継承を目的とする民族教育が行われた。と同時に中華人民共和国の国民の義務とされる国民教育、すなわち漢語教育や中国の歴史と地理などの漢民族が受ける教育と同様の教育も行われるようになった。ウイグル族の漢語学習により、異文化「漢文化」接触が起こる過程で、現代ウイグル語には漢語から借用される語彙も多くなり、また現代ウイグル族の服装、食など言語以外の側面にも漢文化影響が現れるようになった。そこでウイグル族の教育の沿革について述べ、新疆ウイグル自治区で行われている漢語教育の実態を分析するとともに、ウイグル族の言語使用状況について調査を行った結果、以下のことが判明した。すなわち、大人たちの間でウイグル語を使用する傾向が顕著であるのに対して、国民教育を受けている子供たちは、民族文化の維持や保護のためといった民族教育も受けているにも関わらず、子供たち同士の言語使用は漢語が主となっていることが明らかになった。

また生活様式の多様化の実態を探るために、宗教活動、伝統的儀礼と漢民族との交流範囲といったアンケート調査を行った結果、ウイグル族の男性より女

性の、そして子供より大人の、宗教活動が積極的であること、ウイグル族と漢民族の交流は職場と学校が主で、男女または大人子供に関わらず伝統的儀式に参加するといった熱意が高いということが明確になった。この結果から推論できる重要なことは、ウイグル族の伝統文化の維持と継承にとって、各儀式に参加する、そしてそれらに子供を参加させることであろう。もちろん民族文化の維持と継承には家庭教育も重要な役割を果たすと推測されるがゆえに、家庭の中で、民族文化伝統がどのように維持され、どのように継承されているのかという現状については今後の研究で分析を進めていきたいと思っている。

〈参考文献〉

※日本語文献

- アイネル・バラティ 2009「ウイグル族におけるイスラーム文化の受容に関する一考察」『西南学院大学大学院国際文化研究論集』2009年1月
- アイネル・バラティ 2010「新疆ウイグル自治区の女子家庭教育について」『西南学院大学大学院国際文化研究論集』2010年1月
- 丸山孝一著 『周縁文化視座』—民族関係のダイナミックス— 九州大学出版会出版 2010年
- 佐藤泉 著 「滞日ユダヤ人家族における民族文化の伝達・継承に関する一考察」『民族研究』53巻2号 1988
- 日本イスラーム協会、島田襄平、阪垣雄三、佐藤次高 『新イスラーム辞典』平凡社 2002年
- 余部福三 著 『イスラーム全史』勁草書房 1991年
- 山下晋司、船曳建夫編 『文化人類学キーワード』株式会社有斐閣 2008年

※中国語文献

- 新疆維吾爾自治区概況編写組著 『新疆維吾爾自治区概況』民族出版社 2009年
- 張碧波、董国 著 『中国古代民族文化史』黑龙江人民出版社 1993年
- 劉志霄著 『維吾爾族歷史』民族出版社 1985年
- 曹 紅著 『維吾爾族生活方式』中央民族大学出版社
- 賀靈、佟克力著 『歷史民族文化』新疆人民出版社 2006年
- 樓望皓著 『中国新疆民俗』新疆美術攝影出版社 2003年
- 馬力克·恰尼西夫著 『中国塔塔爾族教育史』民族出版社 2005年

※ウイグル語文献

- 庫熱西·買合木提江·熱義思 主編 『現代維吾爾語』新疆人民出版社 2003年
- 蘇來曼·沙帕爾 著 『現代維吾爾語』新疆人民出版社 2000年
- 阿不都熱依木·阿西木 『維吾爾族風俗誌』新疆人民出版社 1993年、(2000年)

維吾爾族簡史編写組 『維吾爾族簡史』 新疆人民出版社 2006年
海熱提江 『東西文化交流與維吾爾人』 新疆人民出版社 2002年

インターネット

「中華人民共和國国家統計局」 <http://www.stats.gov.cn/tjgb/rkpcgb>

「庫尔勒市人民政府网站」 <http://www.xjkel.gov.cn/structure/zjkel/keljjj>